

# 集合形漏電継電器 UP-10K形

## 検出ユニットの追加方法と外し方

LR1202

泰和電気工業株式会社

### 1. はじめに

ここでは、検出ユニットの追加および外す方法について説明致します。外部配線や零相変流器の取り付けや取り外しについては、一般の漏電継電器と同様に対応して下さい。

検出ユニットは、高感度形(UPK-D)、軽・重2段動作形(UPK-2D)とも操作方法は同様です。

### 2. 検出ユニットの追加方法

UP-10K形の空きスロットに検出ユニットを追加する場合の方法です。

- ①ケース前面の透明カバーを外します。「OPEN手前に引く」と書いてある側を手前に引いて下さい。
- ②右上にあるスナップスイッチ「運転・停止」を「停止」側に倒します。これで検出ユニットの電源がオフとなります。
- ③下半分の名称板を外します。(止めネジ4本を指で回して外します) 堅い場合はマイナスドライバーでゆるめて下さい。
- ④追加する空きスロット位置を確認します。スロットの数は全部で5スロットです。
- ⑤検出ユニットの上下を確認して下さい。回転式のロータリースイッチ2個(大きいつまみ)が上側に 押しボタンスイッチ2個(小さいつまみ)が下側となります。
- ⑥追加する検出ユニットをスロット溝に合わせて軽く挿入し、奥のコネクタに軽く勘合することを確認します。
- ⑦奥のコネクタが勘合していることを確認したら、検出ユニットを奥まで押し込みます。
- ⑧引き抜き用帯(黒い帯)が、邪魔にならないように押し込んで下さい。
- ③②①を逆にたどれば実装された検出ユニット位置を自動検出し、動作可能となります。

### 3. 検出ユニットの外し方

UP-10Kの検出ユニットを外す方法です。

- ①ケース前面の透明カバーを外します。「OPEN手前に引く」と書いてある側を手前に引いて下さい。
- ②右上にあるスナップスイッチ「運転・停止」を「停止」側に倒します。これで検出ユニットの電源がオフとなります。
- ③下半分の名称板を外します。(止めネジ4本を指で回して外します) 堅い場合はマイナスドライバーでゆるめて下さい。
- ④該当するユニットの正面上端にある引き抜き用帯(黒い帯)を引き出します。指でつまみにくい時は、小型ドライバーなどで引き出して下さい。
- ⑤上記④で引き出した帯を指でつかんで手前に引き、検出ユニットを引き出します。
- ⑥検出ユニットを取り外した回路に該当する零相変流器が、主回路に接続されたままの場合は、安全のために、継電器裏面の端子台Z1-Z2または、零相変流器の2次側端子k-l 端子間にわたり線を接続して、ZCT2次回路がオープンのままとならないように処置をして下さい。

以上で、検出ユニットの取り外しが完了しますので、③②①を逆にたどれば、残りのユニットは従来通りの動作が可能となります。

なお、検出ユニットを抜いた回路は、自動的に検出対象から除外されますので、検出ユニットの収納位置が、とびとびとなっても構いません。

検出ユニットの抜き差しの際は、電子部品の破損防止のため必ずスナップスイッチが「停止」位置になっていることを確認してから実施して下さい。漏電継電器の制御電源の元を OFF にしなくても抜き差しは可能です。